

# てんき新聞

No.153  
発行所 山崎市  
0883-88-5292

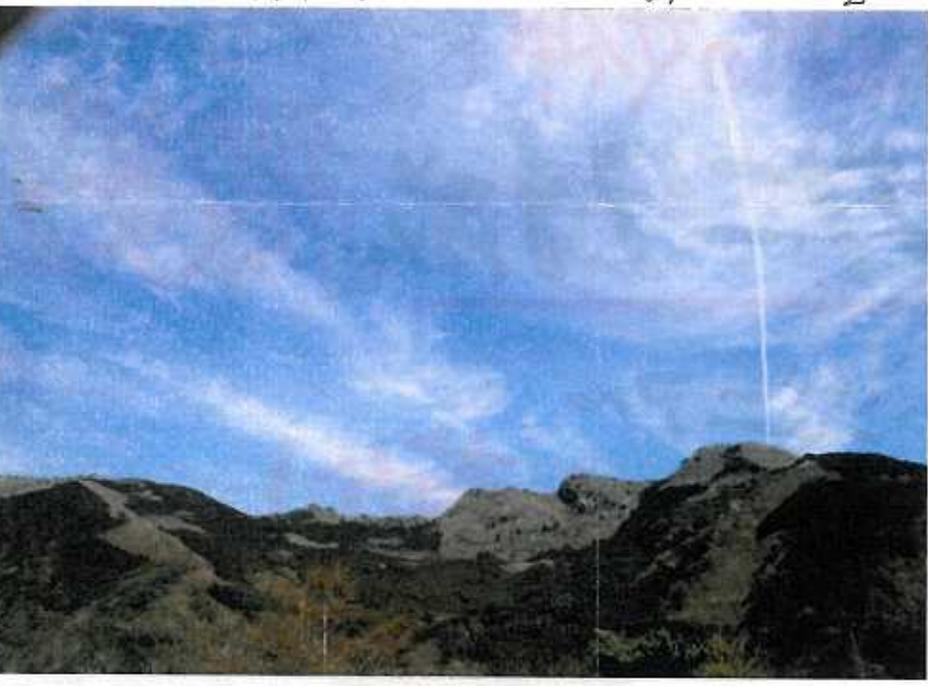
風と雪が舞う中、新年を迎えた2010年、冬は、冬眠に限ると睡眠にふけていこと、暖かい日には、つい目覚めてしまおう。なにやら騒々しい音がするとおもえば、またまた「金と政治」でテレビも新聞も、小沢、小沢とヒートアップして、ゆっくり



## むらぐ春だぬ

寝ることでもぎんはい。  
この国は、どうなるんだろう...なんて他人事に考える自分が居る。ちょっと自己嫌悪におちこしまおう。  
やっぱり部屋に籠っているマイナスに考えこまおう。早く春が来ないかなあ。

雪が溶けはじけると、そこにはもう露のとうが顔を出して、さすがに鹿の目も冬のご馳走とばかりに喰ってしまっている。芽が出はじめると彼らの餌と化してしまひ、なか私らの口には入らなくなりそうぞ。夜、祖谷の道路を車を走れば、一頭や二頭だけではなく、鹿にあいませ。



変化は動物ばかりにはありません。段々畑の片すみでは、オオイスノフグリが咲きはじめて、日当りの良い所では、福寿草も咲いていませ。年々、目もよろいようになり、エコデ、エコダと声を大にして、新しい物品を販売してはいますが、私たちの身の回りから変えていかなければ、企業戦略に負けてしまひませ。はんで、部屋の中から雪景色を見ながら、コーヒーの一杯を飲めるのだから、田舎の生活はノビリして、いいとんぞ。冬の大変さも、田舎の不便さも、病院の遠さも、全部まとめて祖谷びんです。考えをめぐらして、自分の子供頃よりはおらうと便利に住み易い事、言うことなご。大きき違っているのは、見事なまでの段々畑が、今や、木や松の人工林の山にならなご。どこの山もあり、畑があったか不思議なくらい。そして、人々も少なくならなご。それでも祖谷は、祖谷です。今、住んでいる人達と、ヤクも楽々、面白く生活して行く為、何かをしてお互い絆を深めていこう、たいものぞ。その一つの方法が、元貞印の赤旗があることは間違ありません。

とまたまた他人のせいにしてしまふ。いけない、いけない。雪景色を見れば、どうもこれいられぬ。目もよろい、冬の祖谷の山々を歩いていく様ですが、私は雪にみれば条件反射でうきうきは、本を読めるぞと部屋の中。お蔭様で、いろんな本と出合いました。知らぬい世界にも出合ふことが出来ました。これも、折々小中学校に毎日の様に多くの本を送つて下さる人達が存在するからぞ。本当にありがたうございませ。

